キャンサーひょうご

ひょうごがん患者連絡会　ニューズレター No.6

発行責任者 中原武志　編集 田村・坂手・有本・石上・草野

〒651-2109 神戸市西区前開南町 1-2-1 阪神高齢者障害者支援ネットワーク内

TEL 078-976-5050 FAX 078-977-0224　http://hyogo-capa.net/

一歩を踏み出すという事

いずみの会　高出　昌洋

いずみの会が設立されて、３０年になろうとしています。

日本におけるがん医療の先駆者、故河野博臣河野胃腸科外科医院（後に河野心療内科医院）院長は、外科的治療に加えて心身医学的治療法の必要性を唱え、１９７０年代に「胃腸友の会」を開いて術後のアフターケアーに努めていました。

「日本には患者の家族に力付けてあげる会がない。同病相励まし合う会を作らねばならない。死の恐怖は無くならないが、それと戦おう。楽しく朗らかに生きていこう。」と患者自らが運営するがん患者の会の設立を呼びかけました。

こうして１９８２年５月、「胃腸友の会」を改称して命の泉が湧き出してくるようにという祈りを込めて「いずみの会」が誕生しました。

「一人ひとりの経験を話し合い、イメージ療法にひと時を過ごして、病気の再発を防ぎ、病気と上手に付き合うことを体験として知る」という設立時の会のありようは、河野先生亡き後も守られ、月一回（当初十年間は月二回）の例会は家族的な雰囲気のもとで滞ることなく続けられています。　再発・転移等で再入院する会員があります。退院して会に出席すると、「お帰りなさい」という言葉が自然に出てきます。最近気になるのは、「手術できない」「抗がん剤も効かない」などといって医者から見離された人が尋ねてくることが多いことです。これほど医療機関との連携が叫ばれていても、使いたくない言葉ですが、「がん難民」は増え続けているように思えます。

いずみの会は時代の要請を先取りする形で誕生しましたが、「連絡会」はまさに時宜を得た発足であったと思います。行政への働きかけがこれまで大きく輪を広げる事が無かったことは不思議なくらいですが、患者の声が患者会を通して届けられ、キャッチボールをするように直ちに返って来る医療の実現が待たれます。

いずみの会がこの連絡会に参加させていただいたことは、いずみの会が新しい皮をまとう機会を得たと言えます。「頑張り過ぎない」という自然体が身についているせいか、決してフットワークが軽い会ではありませんが、新しい情報を受け取りながら、自ら発信できる会としての一歩を踏み出しつつあるところです。

以　　上

癌の放射線治療の現状

～先端医療センター放射線治療科部長　小久保雅樹先生寄稿文～

放射線治療は手術療法・化学療法とともに癌治療の三本柱のひとつである。放射線治療は他と比較し低侵襲の特徴を持っており、以下のような大きな利点を有する。

1. 患部を切除しないで治療するため機能・形態の温存に優れている。
2. 手術のできないいかなる部位でも自由に治療できる。
3. 手術や化学療法に比べて体の負担が少なく、合併症を有する患者や高齢者にも適応できる。

近年は治療機器・治療技術の開発・進歩が飛躍的に進み、更に侵襲の少ない「高精度放射線治療」が普及しつつある。現在欧米では癌患者の初回治療の 60%に放射線治療が行われている。本邦では未だ 25%程度ではあるが、近年の高齢化社会や QOL に対する意識の向上に伴い、これらの特徴はより大きく評価され、近い将来欧米並みに増加することが予想されている。

他方、放射線治療の問題点として、第一に手術療法に比べて局所制御の点で劣る癌が少なくないことがあげられる。これは、さまざまな要因により放射線感受性が低くなることや、病巣周囲に放射線感受性の高い臓器が存在する場合に局所制御に必要な高線量を投与できないことが理由である。第二は病巣周辺部の正常組織に有害反応が出現することである。すなわち、根治性の向上と放射線照射に伴う有害反応の軽減が放射線治療の問題であるが、それらを克服する方法が開発され、臨床に用いられつつある。

放射線治療は、悪性の腫瘍の根絶を目的にする根治照射、疼痛などの症状緩和を目的とする対症療法に分類できる。また、併用する治療法によって、外科的療法と組み合わせる時期によっては、術前照射、術中照射、術後照射に分類されるし、化学療法と併用するタイミングの観点からは、いずれかを先行させる逐次化学放射線療法、同時に併用する同時化学放射線療法、両者を交互に施行する交代化学放射線療法に分類される。近年は、腫瘍の縮小が良好な際には手術を回避できたり、侵襲の少ない術式に変更できたりする術前照射が行われる傾向にある。さらに、多くの抗癌剤には放射線増感作用があることが判明し、急性の有害事象はやや増強するものの、手術に匹敵、あるいは、凌駕する局所効果が得られる同時化学放射線療法が放射線治療の中心となっている。

放射線治療の有害事象は、治療中、あるいは、治療後間もない時期に見られる急性有害事象と治療後 6 ヵ月以降に見られる晩期障害とに大きく分けられる。前者はほとんどが一過性で治療終了後には回復するため、対症療法を駆使し、放射線治療を中止しない工夫が必要である。臨床的により大きな問題となるのは晩期障害である。いったん発症すると回復は困難であるが、最近では、各正常組織の耐用線量が明らかにされ、あらかじめ障害を生じさせない放射線治療計画が可能となってきており、その頻度、程度ともに以前よりも大きく減少している。現在では、重篤なものは 1%以下でしかない。

放射線治療の課題は根治性の向上と有害事象の軽減であるが、これらを可能にした近年の重要な放射線治療技術として、定位放射線照射（Stereotactic Irradiation）、強度変調放射線治療（Intensity-modulated Radiation Therapy; IMRT）、画像誘導放射線治療（Image-guided Radiation Therapy; IGRT）がある。

体内の病変の位置が正確に把握でき、そこに放射線を集中することが出来れば、正常組織の被曝が低減でき同じ線量でより副作用の少ない治療が可能となる。また、有害事象を増加させずに線量を増加することも可能となり、腫瘍制御率の向上に結びつく可能性がある。定位放射線治療は放射線を集

中する一方法であり、この方法によって空間的線量分布は劇的に改善される。

IMRT は、照射野内のビームの強度を制御し各方向から不均一な強度分布で照射し、全体として理想の線量分布を達成する治療法である。IMRT では、著しく不均一なビームを多方向から照射することにより、リスク臓器への線量を低減し、腫瘍に対してはその形状に合わせて高線量を選択的に投与できる。IMRT が臨床に与える影響は極めて大きく、有害事象を増加させることなく腫瘍を根治できる制御率の向上が現実のものとなりつつある。

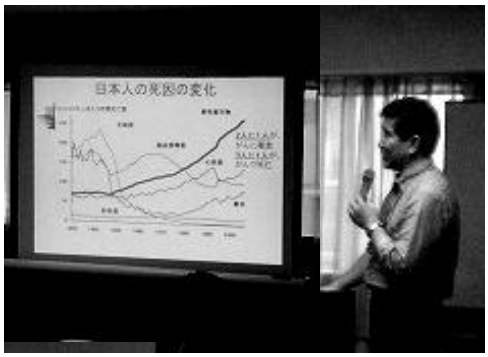
IMRT を体幹部腫瘍の治療に応用する場合には、呼吸性移動や周囲臓器の変化などにより腫瘍の位置移動があるため逆に正常組織へ高線量を投与する危険性があり、それに対する対策が大きな課題となる。腫瘍に対する十分な位置精度を出すことが IMRT の効果を最も高めることになる。これらの課題に対する解として、「画像を利用」して腫瘍の位置合わせを高精度かつ効率的に行う方法や、病変や臓器の体内移動を検知し動きに対応した照射を行う方法が開発された。それらが IGRT である。最近では、患者は自由呼吸をしながら、装置側が呼吸に合わせて照射を行うシステムが研究・開発されている。

医療の中でも放射線診断・治療の世界は IT 技術や機器の発展と直結する領域であり、学際的にも産業・経済的にも高い注目を浴びている。IMRT、IGRT や呼吸等の体動に対応する機器の開発はその典型例であり、様々な機器・手法が開発・臨床応用され、高精度放射線治療の発展を支えている。今後益々この領域が発展し、より有害事象が少なく効果の高い放射線治療の実現が期待される。

ひょうご がん患者連絡会の活動概況を紹介します

（2009 年 6 月~7 月 活動分）　　事務局

2009 年 6 月 18 日（木）：第 2 回月例会を開催しました。



第 1 部として先端医療センター小久保先生に前掲の講演をして頂きました。

先生には放射線治療の基本的なことから現状までの発展過程、そして最先端治療法までデータや画像を使って分り易く説明をして頂きました。最後に紹介頂いてた IGRT は、先生が中心になって開発された世界最高水準の医療機器として、この 6 月に認可の下りたものです。

その他、注目的な話題として、放射線治療医不足の現状について、これまでの京大ほか一部の大学にしか設置されていなかった「放射線腫瘍学講座」が、全国的に各大学医学部に開設される動きがでてきたとの明るい話も頂きました。

なお、講演に先立って、先生から参考文献として三橋紀夫著「がんをどう考えるか～放射線治療医からの提言～」（新潮新書）を紹介いただいています。

また席上、座長の中原会長から、西尾正道著「今、本当に受けたいがん治療」（エム・イー振興協会）の紹介がありました。

第 2 部は 2 か月ぶりの例会で話題が多くフリートーク・ミーティングの会となりました。

2009 年 7 月 17 日（木）：第 3 回月例会を開催しました。

各団体などから最近の活動状況を紹介して頂いた上で、今年度の事業計画への各団体等参画計画を検討しました。

（田村美生夫　記）

ひょうご がん患者連絡会行事予定（2009 年 8 月～10 月）

日　　時	行事・会費	テ　ー　マ・講　　師	場　　所
8 月 20 日（木） 18：00～18：30	第 4 回 運営委員会	今年度事業計画推進体制ほか	兵庫県民会館 ９０２号室
18：30～20：30	第 3 回 がん医療研修講座	がんセンターのがん医療への取組み 県立がんｾﾝﾀｰ　副院長　足立秀治 Dr.	
20：30～	研修ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ	研修後の討議でテーマ決定	
8 月 29 日(土)<u>予定</u> 13：00～16：30	第 3 回「早期発見 早期治療」ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ	がん検診とがん治療ほか	ひょうご 女性交流館
9 月 17 日（木） 18：00～20：00	第 3 回 ﾌﾘｰﾄｰｷﾝｸﾞ会	――――――	神戸生活創造 センター(<u>予定</u>) G活動ブース
20：00～	第 5 回　運営委員会	――――――	
10 月 16 日（金） 18：00～18：30	第 6 回 運営委員会	――――――	兵庫県民会館 ９０２号室
18：30～20：30	第 3 回 がん患者会研修講座	兵庫県のがん対策について 前疾病対策課長　鷲見　宏氏	
20：30～	研修ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ	研修後の討議でテーマ決定	

ニューズレターの編集について

このニューズレターは、５団体から応募いただいた編集委員による協議で編集し、会長の査閲を経て発行されます。

ニューズレターの構成は、第 1 面が各団体代表による取組み報告、第 2 面が各団体持ち回り執筆の連絡会関係の活動報告となっております。

この第 6 号は“いずみの会”さんに担当頂きました。6 月度例会は“いずみの会”高出代表が治療の関係で欠席されましたので、第 2 面は小久保先生のご好意による寄稿文を掲載しました。

第 7 号（9 月発行）は“いちごの会”　さんに担当頂きます。よろしくお願いします。

編集後記は編集委員持ち回りで、“ゆずりは明石”草野副代表にお願いします。　　（事務局）

編集後記

はりま粒友クラブ　坂手信広

第 6 号ニューズレターの特集記事として、第二面にがん治療医として数多くの放射線治療を行なう傍ら、医療機器の研究開発に取り組んでおられる小久保雅樹先生の講演を掲載しています。

日本における放射線治療は、欧米の 60%に比し 25%と少ないが、「病変の位置の正確な把握」、「ピンポイントでの放射線集中」に対応できる医療機器類の開発等により、近々40%位になると思われる。大事な事は、「初回治療方法の選択」、医師は大変忙しく「限られた時間内に濃密なやりとりができる」かであり、その為には患者も勉強する必要がある」という話しは印象的でした。

[ニューズレターNo.6 差込みページ・・・・裏面もご覧下さい]

がん患者連絡会加入団体等の公開講座等予定（2009 年８月～10 月）

日時・場所	主催(TEL)・会費	テーマ・主な内容・講師
7 月 31 日（金）[第１部] 13：30～17：00 神戸国際会議場 501 号室	NPO 法人 エスビューロー (072-622-6730)申込者優先 1000 円	第 2 回小児がん・脳腫瘍全国大会 「全国の小児がん患児・家族 大集合！」 体験交流会と西上支援学校教頭講演会
8 月 1 日（土）[第２部] 9：00～12：00 神戸国際会議場 501 号室	NPO 法人 エスビューロー (072-622-6730)申込者優先 1000 円(第２・3 部共通)	「小児がんｻﾊﾞｲﾊﾞｰの復学・進学・就職」 ・就業継続戦略：福井保健師公演会 ・高卒認定・AO 入試：木村高等学院部長
8 月 1 日（土）[第３部] 13：00～16：30 神戸国際会議場 501 号室	NPO 法人 エスビューロー (072-622-6730)申込者優先 1000 円(第２・3 部共通)	「ﾒﾃﾞｨｱ報道と小児がん・脳腫瘍の 今後の方向性を考える」 ・ﾊﾟﾈﾗｰ発表とパネルディスカッション
8 月 2 日（日）[第４部] 9：30～12：00 国際会議場 503~505 号室	NPO 法人 エスビューロー (072-622-6730)申込者優先 1000 円	「小児白血病セミナー　および 小児脳腫瘍・固形腫瘍個別相談会」 （503~505 号室 3 会場分散会）
８月８日（土） 10：00～11：30 ﾎﾟｰﾄﾋﾟｱﾎﾃﾙ「ｻﾌｧｲｱの間」	日本災害看護学会⑪年次大会 (078-976-5050)　無料 (先着 50 名特性三角巾ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾄ)	「阪神・淡路大震災体験者からのﾒｯｾｰｼﾞ」 ・身近なものでの救護法実践講習 ・お楽しみ寄席(中学生落語家の落語会)
８月 12 日・9 月 9 日（水） 14：00～16：00 春貴ﾋﾞﾙ 4 階(三宮町 3-9-19	日本がん楽会 (078-958-8415 午後) 無料	「第 6、７回 がんサロン」語らいの会 #6 檜垣忠氏 ：“歌とお話” #7 北原可琳氏：“ラフターヨガ”
８月 23 日（日） ①12：30～②15：00～ 神戸芸術ｾﾝﾀｰ(新神戸駅前)	心の夏コン実行委員会 (075-203-2676 小山音楽教室) 無料(先着順 132 名)	リレーフォーライフ芦屋 「心のﾊﾞﾘﾔｰﾌﾘｰ ﾁｬﾘﾃｨｰｺﾝｻｰﾄ」 松谷優希、竹内まゆ・ふみ・香
8 月 29 日（土） 10：00～17：30 神戸医療大学　ｵｸﾀﾎｰﾙ	薬と医療ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ委員会 （078-304-3143）要申込 3000 円　(学生：無料)	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ「がん対応チーム医療」 基調講演：NCC 中央病院 山本弘史氏 ｼﾝﾎﾟｼﾞｽﾄ：医療・薬剤関係者・患者
９月１２日（土） 15：00～16：30 兵庫県民会館 304 号室	ゆずりは公開講座 (078-976-5050) 会員 500 円　一般 800 円	「鎮痛剤と副作用」（仮題） だいとう循環器クリニック院長 大 頭 信 義　医師
９月 12 日(土)～13 日(日) 17：00～11：00 芦屋市総合公園	ﾘﾚｰﾌｫｰﾗｲﾌ関西実行委員会 （050-3786-1338） 無料	「リレーフォーライフ・ジャパン ２００９　In 芦屋」 ウオークでは募金に協力を！
９月 20 日（日） 13：00～17：00 先端医療ｾﾝﾀｰ TRI ﾋﾞﾙ２F	日本がん楽会･市民がん治療会 (078-958-8415 午後) 無料	「がん医療の最先端情報」 「在宅医療をご存知ですか」 北海道がん C 西尾院長、関本 C 関本院長
９月 27 日（日） 14：00～16：30 明石市生涯学習ｾﾝﾀｰ７階	ゆずりは明石(創立５周年記念) （078-911-6761） 会員 500 円　一般 700 円	「あらためて　がんとどう向き合うか どう支えるか」 神戸みどり病院理事長　額田　勲　医師

[ニューズレターNo.6差込みページ・・・・裏面もご覧下さい]

「がん予防・早期発見早期治療」プロジュクト活動報告（その１）

前号で、がん検診受診率向上を目的とする標記プロジェクトが立ち上がったこと報告しました。

目下、その節にご紹介したスケジュールに従って活動が続けられております。今月号からはその活動概況について報告します。

・5月30日（土）：キックオフ・ミーティングを開催

プロジェクトの概要説明と実施スケジュールが事務局から示され、メンバー紹介を行いました。

プロジェクトの概要としては、兵庫県疾病対策室から「兵庫県のがん対策の現状」の、PhRMA(米国研究製薬工業協会)から「プロジェクトの概要」の説明がありました。

メンバーは次の通りです。

兵庫県の公募に応募して参加いただいた大学生・高校生		：14名
（内１名は、ひょうごがん患者連絡会加入団体の子供さんです）		
県立がんセンター、兵庫医大病院、西宮市立中央病院医師		：３名
ひょうごがん患者連絡会		：２名
事務局	兵庫県健康福祉部	：３名
	PhRMA	：３名
	ジャパン・カウンセラー	：２名

・6月20日（土）：第１回コンソーシアム・ミーティング開催

「がんって何？」を研修した上で、グループ編成と役割分担を決め、キャンペーン・パンフレットをどの様なものにするかを検討しました。

１、「がんって何？」は、県立ガンセンター研究部 須藤保医師にレクチャーをして頂きました。腫瘍バンクに保存している原発がん、転移がんおよび浸潤がん細胞の増殖過程をビデオ画像で示された上で細胞の自己修復、がん細胞の増殖・悪質化過程を図示され、誰にでも分かるように「がんの恐ろしさ」と「早期発見・早期治療の重要性」を訴えるものでした。

２、グループ編成は学生を２グループの分け、夫々に医師と患者がアドバイザーとして配置されました。その上で、グループ毎に「キャンペーン・パンフレットをどの様なものにするか」を検討しました。

・7月18日（土）：第２回コンソーシアム・ミーティング開催

第２回コンソーシアムの検討内容は次の通りです。

１、A，B各グループから「がんとは何か」のパンフレット構成と内容案について、第１回コンソーシアム・ミーティング以降の作業内容を纏めたものを報告していただきました。夫々に「早期発見のためには」のメッセージを纏めたものです。

２、事務局から「リーフレットの制作に当たって」の情報の集め方についてレクチャーを受けました。

３、纏めとして、学生グループは「A，Bグループの報告内容の集約」と「今後の進め方」について討議し、サポーターグループは「プロジェクトの進め方」についてフリー討議を行った上で、全メンバーによる討議を行って、次回までの作業を確認して終わりました。

（事　務　局）